

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520237

研究課題名(和文) 善珠『梵網経略抄』の総合的・領域横断的研究

研究課題名(英文) Comprehensive and Trans-disciplinary Studies of Zenju_Bonmoukyoryakushou_

研究代表者

津田 博幸 (TSUDA, Hiroyuki)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：80318708

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)： 善珠『梵網経略抄』の戒律全五十八戒の内の三十九戒について、経典本文および注釈部の本文校訂作業、善珠が注釈のために参照・引用した中国・朝鮮の先行注釈書の特定、引用元と引用文との本文異同の確認作業を終えた。

その第一の成果として、信頼できる校訂本文を得ることができた。第二の成果として、善珠は中国・朝鮮の先行の注釈書を正確に理解した上で、必要な取捨や改変を加えて自著に引用(切り貼り)しており、その細部に彼の思考の固有性が宿っていることが明らかになった。彼の「切り貼り」の機微を読み解くことで、八世紀の東アジアの中で日本僧がどのように仏典なるものを理解し、血肉化したのかを解明する糸口が開けた。

研究成果の概要(英文)： Of thirty-nine out of fifty-eight commandments of Zenju's Bonmou-kyo Ryakusho (The Brief Extracts from Brahmajala-sutra), I have completed the textual revision of the sutra and the notes, the identification of the preceding Chinese and Korean annotated editions Zenju consulted, and the confirmation of textual differences between citations and their sources. Accordingly, I obtained the reliable text, revealed Zenju's originality as an annotator, and found clues to investigate the ways eighth-century Japanese priests understood and internalized Buddhist sutras.

研究分野：古代日本文学

キーワード：仏典注釈 戒律経典 東アジア 古代日本

1. 研究開始当初の背景

古代日本では海外よりもたらされた仏教経典に対して日本僧による多くの注釈が書かれ、現在も伝存している。これらの注釈書は古代の日本人が仏教をどのように理解・受容し、自らの精神においてどう血肉化し信仰したかの軌跡を最も生々しく示す第一級の資料群であるが、従来これらに真正面から取り組む研究はほとんどなされてこなかった。このことは(本研究の連携研究者である)山口敦史「古代前期・仏典注釈の世界 善珠撰述経疏の言説を中心に」(古代文学会編『祭儀と言説』、森話社、1999年)が早くに指摘するところである。

本研究が対象とした善珠『梵網経略抄』についても、たとえば石田瑞磨「『梵網経』の注釈について」(同著『日本仏教思想研究』第二巻、法蔵館、1986年)は、先行注釈の引用のつぎはぎに終始し「独創性」の欠如した無価値なものだと評している。本研究はこのような価値観を疑うところから出発した。「独創性」という現代的価値観を古代の信仰と知の営みに無媒介に当てはめるのではなく、むしろ古代人の営みにまずは寄り添い、それが古代人にとって有したであろう価値を測ることの方が(宗教・思想・文化・文学などの)歴史の研究として重要だと考えられたからである。

八世紀日本における仏典注釈は、中国・朝鮮の先行注釈書に引用・依拠しつつ、そこに改変や独自説を付加し、さらに関連仏典、儒教・道教の経典、小学書などの外典をも参照・引用して書かれている。つまり、当時の日本人にとって仏典を注釈することは東アジアの普遍的言説空間へ参画することであり、その中で他者の言説と半ば融合するようにして自らの思考を展開し、仏教を理解・受容してゆく営みであった。当然のことながら、そこで行われた知的営みを十全に理解するには参照・引用・独自説が渾然一体となったテキストを腑分けしつつ丁寧に読んでゆく作業が必要になるが、『梵網経略抄』について、そのような作業が本格的になされたことはなかった。

本研究の研究代表者・連携研究者・研究協力者のグループはこの内『本願薬師経鈔』の解説を平成13年(2001)9月～平成18年(2006)4月の間に終了し、その成果は研究論文集として刊行されていた(山口敦史編『古代文学会叢書・聖典と注釈』、2011年10月、武蔵野書院)。『本願薬師経鈔』は桓武天皇の宮廷で修された薬師悔過のために書かれたと考えられ、当時の仏教の王権へのアクチュアルな関わり方が生々しく知られる点でも注目されるテキストであった。

それに対して、『梵網経』は古代日本で多く書写され広く学ばれた戒律経典であり、その具体的な禁忌・行動規範や倫理観が大きな文化的・精神的影響をもたらした可能性が高い。しかし、そもそもこのテキスト自体が古

代文化・思想・文学などの研究の側から注目されてはこなかった。その意味で研究の盲点になっていた領域であった。

『梵網経』上巻は持戒と修行によって悟りへ進む心の発展段階を説き、善珠はそれを唯識説の立場 本研究グループではすでに平成18年(2006)5月から『梵網経略抄』の解読作業を続けており、平成23年度には上巻を終了し、下巻に入ったところであった。

2. 研究の目的

上記背景のもと、平成24年度からの三年間について以下の目的を設定した。

(1)『梵網経略抄』、および同書が依用した先行注釈書の諸本写真版収集、『梵網経略抄』の校本・索引の作成。

(2)下巻の解読。特に善珠が参照・引用した経典・先行注釈類を明らかにした注釈を作成する。

(3)善珠の引用態度および独自説の特徴を明らかにする。

(4)『梵網経略抄』に見られる知見から古代日本の文化・思想・文学の読み直しをする。

3. 研究の方法

毎月一回および夏・春の大学の休暇期間に研究会を開催し、注釈的読解作業を協同で行う。合わせて、諸本調査と写真版収集を適宜出向いて行う。同時に、『梵網経』自体(経の本文)、『梵網経略抄』の注の引用もとである、義寂『菩薩戒本疏』、太賢『梵網経古迹記』、法銚『梵網経菩薩戒疏』などのテキスト調査も行う。また、古代仏教関連の寺院・史跡を実地見学し、テキストの背景にあった仏教文化にも触れる。

4. 研究成果

善珠『梵網経略抄』の戒律全五十八戒の内三十九戒について、経典本文および注釈部の本文校訂作業を終えた。特に経本文については、中国の金石文資料・敦煌文書も校訂に用い、万全を期した。その成果として、信頼できる校訂本文を得ることができた。なお、この作業は研究期間終了後も継続し、完成させる。また、順次インターネット上に公開する。

また、善珠が注釈のために参照・引用した中国・朝鮮の先行注釈書の特定、引用元と引用文との本文異同の確認作業も三十九戒分を終えた。

善珠は主として新羅・太賢『梵網経古迹記』に多く依拠しているが、他にも唐・法銚『梵網経菩薩戒疏』、新羅・義寂『菩薩戒本疏』の依用が明らかになった。

それらの引用(切り貼り)の仕方を詳細に

検討すると、善珠はこれら先行注釈書を正確に理解した上で、必要な取捨や改変を加えて自著に引用（切り貼り）しており、その細部に彼の思考の固有性が宿っていることが理解された。彼のこのような「切り貼り」の機微を読み解くことで、八世紀の東アジアの中で日本僧がどのように仏典なるものを理解し、血肉化したのかを解明する糸口が開けた。

さらに、善珠がそれらを引用しつつ随所に加えている改変の中に、戒律を厳しくしたり緩めたりという、きわめて重要な変更も含まれることがわかってきた。また、注釈文の中には、古代日本仏教や仏教文学について重要な影響を与えた可能性のある要素が含まれていることも明らかになってきた。例えば、『三宝絵』などの説話集に影響を与えたであろう釈迦の前世譚が引かれていること、最澄の怨霊鎮魂の願文にも見える「怨を以て怨に報いず」との言葉が見えること、『日本霊異記』でもテーマとなる仏菩薩の「形像」の信仰的意味が語られることなどある。これらの問題群は、今後、当研究グループによって、順次学会発表・論文化されることが期待される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

山本大介、末法の経典と説話：『日本霊異記』下巻第三十三縁の引用経典と三階教、古代学研究所紀要（明治大学）第20号、査読無、2014

渡部亮一、古代日本国の「神力」 善珠の注釈活動を中心に、論究日本文学第100号、査読無（2014.5）

〔学会発表〕(計5件)

山口敦史、『日本霊異記』と「鬼」の説話 中国仏教説話との比較、説話文学学会例会、2014.12.

大塚千紗子、『日本霊異記』における盲目譚 古代東アジア圏の信仰と奇瑞、南開大学・國學院大学院生学術フォーラム、2014.7.

富樫進、ほとけの教え は夷にとどくか 9世紀前期日本仏教の方言 に関する言説をめぐって、日本文学協会第34回研究発表大会、2014.7.

山本大介、『日本霊異記』と三階教、日本文学協会第33回研究発表大会、2013.7.

渡部亮一、善珠の注釈活動と「神力」、日本文学協会第32回研究発表大会 2012.7.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
現在公開準備中。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

津田博幸 (TSUDA, Hiroyuki)
和光大学表現学部教授
研究者番号：80318708

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

山口敦史 (YAMAGUTI, Atsusi)
大東文化大学文学部教授
研究者番号：60280244

富樫進 (TOGASI, Susumu)

東北大学文学部助手
研究者番号：20571532

渡部亮一 (WATANABE, Ryouiti)

立命館大学文学部非常勤講師
研究者番号：10461964

(4) 研究協力者

蝦名翠 (EBINA, Midori)

東京大学大学院文学研究科日本文学専攻
博士後期課程修了

大塚千紗子

國學院大学大学院文学研究科文学専攻（日本文学コース）博士課程後期

奥田和広

東京都立日野高等学校主任教諭

小泉礼子

東北大学大学院文学研究科文化科学専（日本思想史専攻分野）博士後期課程

佐竹美穂

首都大学東京大学院人文科学研究科国文学専攻博士後期課程

村本春香

東京女子大学大学院博士後期課程人間科学研究科人間文化科学専攻言語表現文化領域修了

本橋裕美

日本学術振興会特別研究員

山本大介

普連土学園中学・高校教諭